

2025年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
○基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、「ことば」の力を高めるなど学びの基礎を固め、主体的・対話的で深い学びをとおして、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の向上を図る。 ○「ふるさと教育」を中心とした自然体験活動や、ICT機器を活用した授業改善、小中連携教育など社会の変化に対応した取組を推進し、生涯教育の基礎となる教育を推進する。

授業改善の重点
○始業前のチャレンジタイムを活用し、基礎的・基本的な知識や技能の確かな習得を目指す。 ○三輪地域の自然・文化を生かした「ふるさと教育」を全学年ですすめ、地域の一員であるという自覚を養うとともに、郷土に対する愛着や誇りを育む。 ○授業のねらいの明示や振り返りなどを通して、学習者としての意識を高めるとともに、つながりタイムを活用して主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ICT機器を活用して、可視化や共有化を図る。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○学習アプリ「Qubena」を既習事項の復習や確認のために、授業内での活用をさらに増やし効果検証を図る。 ○授業の終わりの学習の振り返りや家庭学習で日記を継続的に書かせるなど、全学年で連携しながら系統的に指導し、書く力を育成する。	○グループ学習による話し合いを通して、互いの意見を生かし合いながら考えや思いを伝え合って高め合い表現を工夫して歌うことに取り組む態度を育成する。 ○タンギングや息の強さ、運指に気を付けてきれいな音色で演奏ができるよう検定を行い、意欲を高める。	○グループ学習、発表会を効果的に取り入れ、自ら設定した課題解決に向け、目的や意図に応じて考えや思いを伝え合って高め合う資質・能力を備えた児童を育成する。 ○地域の方の協力を得て、米作りや里山の自然を生かした学習に取り組めるようにする。	○道徳的価値の意義を理解させ、他者の多様な考えを受け止め、考え、認め合い、振り返る場面を意図的に取り入れた授業を創造する。課題の発見、解決に向けた主体的・協同的な学びの中で、児童の考えや思いを伝え合って高め合う態度の育成を図る。
	社会科	図画工作科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	○判断の根拠を明確に示しながら考えを述べたり、結果を分析して解釈・考察し説明したりする授業を展開し、考えや思いを伝え合い、高め合う資質・能力を育成する。 ○目的に応じて必要な資料を収集・整理することができる知識・技能や、目的や意図に応じて考えを表現する力を育成する。	○試行錯誤・交流しながら発想を広げる時間を設け、考えや思いを伝え合って高め合う資質・能力を育成する。 ○題材のポイントをわかりやすく伝え、意欲を高めるような掲示物を工夫する。 ○長い題材については作業工程を表示し、見通しをもって取り組めるようにする。		
	算数科	家庭科	○たてわり活動を通して異学年のつながりの活性化を図る。高学年のリーダーシップの基づく異学年の関わりを通して思いや考えを伝え合って高め合う児童を育成する。	○交流的な活動を多く取り入れたり、学習の振り返りを書かせたりすることで、互いに考えや思いを伝え合い高め合える資質・能力の育成を目指す。 ○授業を公開したり交流したりして、学校全体の研修・研究体制を充実させ授業改善に努める。
	理科	体育科		
	○観察や実験から分かったことをまとめ、意見交流をして言語活動を充実させ、児童の考えや思いを伝え合い、高め合う態度を養い学びに向かう力を育成する。 ○プリント等を活用して既習事項の復習を行い、当該単元の確かめに活用して基礎的・基本的な知識理解の定着を図る。	○学習カードや学習掲示を活用した確かめや振り返りでの言語活動を充実させ、考えや思いを伝え合って高め合う主体的な態度を育成する。 ○全ての児童が運動を楽しめるよう、実態に合わせて、活動や場の工夫をする。学習の中にトリオやグループでの活動を意図的に取り入れ、主体的に取り組む態度を育成する。		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
○グループ学習や発表を効果的に取り入れ、考えや思いを伝え合って高め合う資質・能力を備えた児童を育成する。 ○体験活動を精選して年間計画を立てる。	○交流的な活動を多く取り入れたり、学習の振り返りを書かせたりすることで、互いに考えや思いを伝え合い高め合える資質・能力の育成を目指す。 ○授業を公開したり交流したりして、学校全体の研修・研究体制を充実させ授業改善に努める。			

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	振り返りの設定
	実物や写真、図などを提示したり、児童の考えを比較したりする際に、実物投影機やタブレット端末、プロジェクターを活用し、児童が学習内容の理解を深められるように視覚的に支援する。	考えを交流する時間「つながりタイム」を設定し、「自分の考えをもつ」「交流する」という主体的・協働的な学習活動を全教科・領域で展開する。必然性のある交流になるように、目的や学習形態(ペア・トリオ・グループなど)を工夫して学ぶ意欲を高める。	授業の終わりには学習の振り返りを継続的に書かせ、書く力を向上させるとともに主体的に学習する姿勢も育成する。